リポート

産官学連携で地域人材育成を

栗山町 小中高一貫ふるさとキャリア教育

【岩見沢発】栗山町では、教育、行政、企業、地域住民が協力し、地域を担う人材の育成に取り組んでいる。二十七年度から栗山小学校、角田小学校、継立小学校、栗山中学校、栗山高校が、道教委「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」の研究指定校となり、地域資源を生かした体系的なキャリア教育を推進。昨年十二月に小中高合同による「キャリア教育体験発表会」を開催し、キャリア教育の成果を共有した。産官学が連携し、地域総がかりで人材育成に取り組む栗山町の実践を紹介する。

小中高見通し 体系的な教育展開

町では、二十三年度から北海道教育の日に合わせて「栗山町ふるさと教育交流会」を開催。教育関係者、地域住民間でふるさと教育の実践発表や意見交換を行うなど、愛郷心を育む教育活動を展開する。本年度からは、町内全小・中学校でコミュニティ・スクール制度を開始、学校運営協議会を設置して地域総がかりで学校教育運営に取り組むなど、「地域の子どもは地域で育てる」機運が高まっている。

昨年度、町内すべての小・中学校、高校が道教委「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」の研究指定校となった。研究主題「小中高十二年間を見通したキャリア教育の体系化」のもと、行政、企業等と連携し、地域を担う人材の育成を目指している。

事業の柱の一つ「地域ダイスキ・プロジェクト」の一環として、昨年十二月に小中高連携による「キャリア体験合同発表会」を開催。このほか、町の歴史や産業など地域の魅力を紹介する講演会「くりやま塾」、家庭科副読本を活用したグループ学習など、地域資源を活用して一体的なふるさと教育に取り組んでいる。

二十八年夏からは、小中高を通してキャリア教育にかかわる活動をまとめ、学年・学校段階を超えて活用する「キャリアノート」の試行を開始。来年度から本格的に運用する予定となっている。栗山高の前田英伸教頭は「現在の勉強や活動が将来につながるという自覚を深め、学習意欲を高めてくれれば」と期待する。

キャリア教育体験発表会

地元企業等の説明会も

「栗山町小中高ふるさとキャリア教育体験発表会」が昨年十二月上旬、栗山高で開かれた。町内小・中学校、高校の児童生徒七十人が各学校で取り組むキャリア教育の体験を発表。町内の企業・団体による説明会も開催し、キャリア教育に関する情報を共有した。

この日は、町内の児童生徒七十人、企業・団体等六社が参加し、地域住民や保護者ら約百人が訪れた。

開会式に続いて、各学校の児童生徒がブース形式でキャリア体験活動を発表した。

栗山小の発表では、総合学習の時間で行った稲作体験や宿泊学習、介護現場での活動を報告。角田小では、養護老人ホームでの高齢者との交流体験をもとに、「目標をもって進む力」「積極的にかかわろうとする気持ち」など、「幸せになるために必要な力」として発表。「学んだことを生活に生かしていくことが大切で、学校で学ぶことはすべて自分たちの未来に生きてくる」と総括した。

継立小の発表では、稲作体験学習で「働くことの大変さや喜び、米を最後まで使い切る日本人の知恵に感心した」「水量調節、農薬散布など、普段見ることのできない農家の苦労を知ることができた」と成果を報告した。

栗山中では、地元農園での農業体験、コンビニエンスストア、銀行での体験や角田小での教育体験を紹介。農業体験に参加した生徒は、「食べ物をつくる責任の大きさを実感するとともに、一つのものをつくるために多くの人たちの手間や作業が必要であることに驚いた」と感想を述べた。

体験活動で得た知識や考えを伝えた

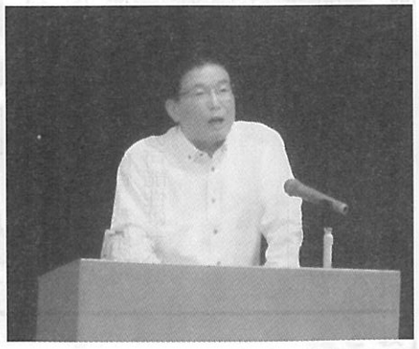
若い発想で活性化

くりやま塾講演会

昨年六月下旬、栗山高で開かれた「くりやま塾」講演会。椿原紀昭町長が「栗山町の魅力と町民が主役のまちづくり～〝ふるさとは栗山です〟誰もが笑顔で、安心して暮らすまち」と題し、町の歴史と魅力を伝えた。

「地域ダイスキ・プロジェクト」の一環として実施。全校生徒、一般参加者ら約二百五十人が参加した。椿原町長は、基幹産業である水稲のほか、小麦、馬鈴薯、メロンなど高品質の農産物を生産している地元農業を紹介。町内にある道内最古の酒造企業など地域の企業・産業や、長い伝統と規模を誇る夏祭りや秋祭りなど、地域の魅力を生徒たちに伝えた。

また、若者が定住するまちを実現するため、「高校生の立場からも必要と思うこと、疑問に思うことを発信し、若い発想で町の様々な問題を考えてほしい」とまちづくりへの参画を呼びかけた。



子どもダイスキ！プロジェクト

保護者との座談会

「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」のもう一つの柱、「子どもダイスキ！プロジェクト」では、家庭や子育てへの理解を深める取組が進められている。

昨年十月中旬、子育て支援センターで「栗山町育児サークルと高校生との座談会」を実施。栗山高三年生十一人が参加し、育児サークルに所属する母子との交流を通して子育ての大変さ、家庭をもつことの意義について考えを深めた。

子育てに関する課題と解決に向けた取組への理解を深め、将来地域を担う人材として必要な知識を得る機会とするもの。「生活と福祉」科目を選択する三年生十一人、町内育児サークルに所属する親子十三組が参加した。

座談会で生徒たちは、「子どもを産んでみて大変だったことは？」「どのような子に育ってほしいか」などと保護者らに質問。和やかな雰囲気で家庭や子育てに関して語り合った。

参加した生徒は、「栗山は子育てをしやすい町だということが分かった」「将来、家族をもつことへのイメージが深まった」と語った。

子育て出前授業

昨年十二月中旬、栗山高は次世代親づくりのための教育出前授業」を実施した。一年生約六十人が参加。石狩市保健福祉部の家庭児童相談員を務める後藤菜摘子氏が講師となり、児童虐待、良好な親子関係を築くためのコミュニケーションについて解説した。

後藤氏は、身体的・心理的虐待、ネグレクトなど児童虐待の種類を解説。効果的なしつけや子どもへの接し方が分からずに悩んでいる保護者、夫婦間の争いで心に傷を負う子どもが増えていることを伝えた。

また、共感的・肯定的に表現する、あいまいな表現を使わずに具体的に話すなど、良好な親子関係を構築するコミュニケーションのポイントを示した。

生徒たちは、「家族間のコミュニケーションの大切さがよく分かった。もっと親と向き合うようにしたい」「自分が家族をもった時、子どもを大事にしたいと強く感じた」と感想を述べた。

物育種研究所の関係者は、栄養価、糖度が高いものなど多様な品種の玉ねぎを紹介し、「育種・品種改良の仕事に就くには、大学の農学部を卒業したあと種苗会社、公務員として農業試験場に就職するのが一般的」と伝えた。

町立道介護福祉学校からは、認知症に関する紙芝居で業務内容を紹介。介護の有資格者が特別養護老人ホームで仕事をすることで高齢者が元気になる実例を紹介した。

町役場からは、若者定住推進室の職員が町の現状と魅力を紹介する「くりやま若者プロモーション事業」など、町の取組を示した。

最後に、道教委の中村隆信教育委員が登壇。「多くの先人が切り開いた産業と文化の素晴らしさ、歴史の価値を受け継ぎ、新しい栗山の歴史をつくって」と激励した。

町教委の南條宏教育長は「地元企業、町の魅力を知ってもらうことも大きな目的の一つ。町の風景が子どもたちの心に残り、地域を担う人間として戻ってくれれば」と期待する。

同事業は、次年度で一区切りとなるが、町は今後、介護福祉学校との連携も深めながら一体的なキャリア教育の取組を継続していくとしている。